

	中期経営目標 【3年間】	短期経営目標 【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目<評価方法>	評価	中間評価
確かな学力	基礎・基本の定着及び課題発見・解決学習の充実<一中における付けたい資質・能力の育成>	<ul style="list-style-type: none"> 「付けたい資質・能力」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科で授業を実践し、自律的に学び、活動できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員が各教科の授業で「付けたい資質・能力」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科での授業の工夫、改善を行う。 広島県公立高等学校入試問題の傾向を検証し、各教科で評価問題を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「各教科の授業がわかる、面白い、楽しみである」の3項目で肯定的な回答をする生徒の割合が70%<生徒アンケート>(1,2学期実施) ②「各教科において評価問題を開発することができた」という肯定的な回答をする職員の割合が100%<職員アンケート>(3学期実施) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかる、面白い、楽しみである」の3項目について、7月に実施した生徒アンケートの結果は次の通り目標値を上回った。 授業がわかる(94.1%) 授業が面白い(82.4%) 授業が楽しみである(72.5%) 「主体的な学び」に向けた教職員の授業改善の結果が生徒アンケートに表れていると考えられる。引き続き、校内授業研究会を実施し、生徒アンケート結果に基づく授業改善に取り組む。 ・各教科において、広島県公立高等学校入試問題を意識した定期試験問題の作成に取り組んでいる。今後も教科グループや教科会での情報交換等を行い、評価問題の作成に取り組んでいく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を大切に、「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着の充実を図るとともに、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。 ・自分の考えをノートにまとめたり、伝え合ったりする場面(言語活動の活用等)を充実させる。 ・各学年の家庭学習目標時間(学年+1時間)に応じて、宿題の出し方(量、期限等)を教科担任間で連携・調整する。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ③◎授業のまとめ・振り返りまで確実にを行い、終了時間を守って授業を終える。職員の自己評価80%<職員アンケート> ④ 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」生徒70%<生徒アンケート>(各学期末に実施) ⑤◎全国学力・学習状況調査の課題がある類似問題を作成実施し、4月より5ポイント上昇させる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・7月実施の職員アンケートでは、「授業のまとめ・振り返りまで確実にを行い、終了時間を守って授業を終える」ことへの回答は、「4-よくあてはまる…17.4%」「3-ややあてはまる…82.6%」であった。 ・自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」という設問への肯定的回答は87.2%、「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」という設問への肯定的回答は80.3%であった。ノート指導、言語活動の充実、指導等を学校生活全体で引き続き指導していく。 ・4月実施の全国学力・学習状況調査における平均正答率は、国語Aは75.0%(76.0, 76.1)、国語Bは61.0%(61.0, 61.2)、数学Aは65.0%(66.0, 66.1)、数学Bは43.0%(46.0, 46.9)、理科は63.0%(66.0, 66.1)であった。[()内の数値は県平均、全国平均]学力補充等により、基礎的な知識・技能の定着を図っていく。
豊かな心	豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導体制を確立し、問題行動の未然防止に努める。 ・自治的活動を推進し、生徒一人一人の自己指導能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会を週1回開催し、情報の共有化と今後の指導方針を確立させる。 ・生徒会活動や学級活動を充実させ、集団の一員としての役割と責任を自覚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」「身だしなみ(服装・髪型)のルールを守っている」生徒90%<生徒アンケート> ⑦◎「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」「無言清掃(生徒会で設定した期間)」「誰にでも、自分からレベル5の挨拶を意識してできている」「自分の学校や学級での役割を果たすことができている」生徒90%<生徒アンケート> 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」という設問に肯定的回答をした生徒は95.2%で、昨年度より1.2ポイント増加した。 ・「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」という設問への肯定的回答は97.4%で、昨年度より3.4ポイント増加した。 ・「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」という設問に肯定的回答をした生徒は93.1%で、昨年度より0.9ポイント減であった。 ・「誰にでも、自分からレベル5の挨拶を意識してできている」という設問への肯定的回答は87.2%とわずかに目標値を下回った。 ・「自分の学校や学級での役割を果たすことができている」という設問への肯定的回答は94.6%で、昨年度より0.4ポイント減。「レベル5の挨拶」の項目についてのみ目標値に届かなかった。生徒会執行部の活動を仕組み、生徒の自己指導能力を育成を図っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、自他ともに大切に生活できる生徒を育てる。 ・学校行事や部活動を通して、生徒の主体的な活動を推進し、思いやりの心やリーダー性を発揮できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uアンケートを年間2回行い、データを参考にしながら集団づくりを進める。(分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する) ・生徒会活動や部長会を活性化し、生徒が主体的に活動する手立ての工夫を行う。(生徒朝会の定例化や集会で目標や課題の共有化を図る) ・リーダー指導・育成を充実させ、主体的な活動に繋げる工夫を行う。(学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒90%以上 ⑨「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒70%以上 ⑩「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」生徒90% 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」という設問への肯定的回答は85.6%で、昨年より1.4ポイント減。 ・「毎月の生徒会目標を意識して生活している」という設問への肯定的回答は77.6%1で、昨年度より3.6ポイント増。 ・「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」という設問への肯定的回答は94.6%で、昨年度より0.4ポイント減であった。 今年度も夏季休業中にスクールカウンセラーを講師として、QUアンケートの分析と気になる生徒の交流と支援を必要とする生徒への指導法について研修した。係会・委員会活動の活性化を図り、諸行事における役割分担を通して、リーダーシップとフォロワーシップの育成を目指して、生徒一人一人が主体的に活動できる環境をつくる。
健やかな体	生きていく基礎・基本となる体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的にを行い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動(特に全身持久力)を計画的に取り入れる。 ・「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組(部活動強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等)を毎学期1回企画・実施・評価する。 ・「昼休憩のボールや縄跳びの貸し出し」等を行い、運動が行いやすい環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑪◎体力テストにおいて全国平均以上の体力の育成をめざす。全国平均以上の項目70%以上 ⑫ 新体力テスト(①5~6月、②11月~2月)の「全身持久力」の項目において、各学年男女とも全国平均・県平均を上回る。 ⑬「体力を高めることを意識しながら生活している」「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」生徒85%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の体力テストは、65%が全国平均を上回り、5ポイント目標値に届かなかった。本校の重点課題は、柔軟性とスピードである。体育の授業において、計画的に5分間走・変形ダッシュや筋力トレーニングを取り入れ改善していく。継続課題である持久走においては、70%を超え改善傾向である。 ・「体力を高めることを意識しながら生活している」という項目への肯定的回答は85.3%で、昨年度より0.7%減。「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」という項目への肯定的回答は88.5%で、昨年度より2.5ポイント増であった。 規則正しい生活リズムを継続・改善していくために、生活委員等の委員会活動を活性化して啓発活動を行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒への声掛けや、部活動へ付く時間を増やすことで、問題行動の未然防止や生徒の力をつける。 ・本校が設定する退校時間を守ることで職員個々の自由な時間を増やし、ゆとりを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級担任は計画的に個人面談を行い、生徒の実態を把握する。 ・各部活動顧問は計画的に個人面談を行い、生徒の実態を把握する。 ・水曜日は本校が設定する退校時間に帰るようにし、自分の時間を持ち、公私とも余裕を持って生活できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑭「先生はあなたの良い所を認めてくれますか」各学年とも全国平均・県平均を上回る。生徒80%以上 ⑮ 職員が水曜日に、本校が設定する退校時間を守ることができる。職員90%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・7月実施の生徒アンケートでは、「先生はあなたの良い所を認めてくれますか」という設問への肯定的回答は、1年が88.6%、2年が88.6%、3年が90.8%(4月の全国調査では82.8%)で、いずれも全国平均の82.2%、県平均の83.6%を上回った。 ・設定した退校時刻を守ることができる職員は67%である。(10月末月平均)